



民話まつり

満員御礼

第十七回を迎えました「夕鶴の里民話まつり」が、去る十月二日(日)夕鶴の里自主事業実行委員会(渡邊記美子実行委員長)の主催で当館、語り部ホールにて盛大に開催されました。

本年の民話まつりには、一昨年の五月にふるさと南陽の地を離れ島根県松江市に移住されました「民話会ゆうづる」の前会長、多勢久美子さんを

夕鶴の里資料館報

平成28年10月20日

第70号
発行 夕鶴の里

TEL 47-5800

ゲストにお招きして盛大に開催されました。

会場の夕鶴語り部ホールは、県内外からご来場された方々で、立錫の余地がない程の盛会ぶりでありました。

まつりは、民話会ゆうづる会員の伊藤進司さんと、大竹和子さんの語りで始まりました。

「多勢さん。お帰りなさい！」の司会者の呼びかけに、おはなしおばさんこと多勢久美子さんが、「鶴の恩返し」を語りながら登場すると、万雷の拍手がありました。

流暢な山形弁のトーク。笑いあり、感動ありの民話や昔話をたつぷりと聴かせていただくとともに、ふるさとの良さや民話の奥深さを改めて認識させられた秋のひと時でした。



伊藤進司さん
「貧乏神」のアイデア



大竹和子さん
「三人の若い衆」

多勢久美子さん



民話を語り、笑わせたり、感動させたり。そのたびに、会場が沸きました。

- 一日一善。
- 一日十人と会う。
- 一日百文字を書く。
- 一日千文字を書く。
- 一日千文字を書く。(1から100までの数字を書くでも良い)
- 一日千文字を読む。
- 一日一万歩歩く。

こんな風に、生活していくと、いつまでも、元気で楽しく生活できると話されました。

来場者から、聞きたい語りのリクエストに答えて、「情けの涙」や、「けやき売り」などを語り、大いに盛り上がり、予定時間より長く楽しませていただきました。

子どもまつり

十月十六日(日)、午前十時三十分より、夕鶴の里語り部ホールで第十八回夕鶴の里「子どもまつり」が開催されました。

今年は、東北文教大学児童文化部をゲストにお迎えし開催しました。

文教大の学生さんたちが、手遊びや、ダンスを教えてくれました。学生さんの歌にあわせて、参加した子ども達も一緒に、真似て手遊びしたりダンスをして楽しい時間をすごしました。

その他に、大型紙芝居や、人形劇もあり、盛りだくさんの内容でした。

手遊びやダンスを喜んで真似している子どもの写真を、保護者が楽しんで撮っていました。

東北文教大学児童文化部の皆さん、楽しい時間をありがとうございました。



第四十二回南陽市芸術祭 芸能フェスティバル

十月十六日(日)

南陽市文化会館で開催された芸能フェスティバルに、民話会ゆうづるの三名が出演しました。



日舞、民謡、民踊、大正琴、フラダンス等々の多くの出演団体の中、民話口演の番になり、「むがくし、むがくしあつたけずまなあ」と始まると、会場は一気に昔話の世界に入っていました。

菅野敏子さんは、漆山に伝わる民話「鶴の恩返し」を語り、白岩けい子さんは、赤湯の白竜湖に伝わる「白竜湖の琴の音」を語りました。最後に松橋信子さんから、宮内の熊野大社に伝わる「真心の一文銭」が語られました。

方言たっぷりの、味わい深い語り口調で聴衆を魅了していました。

オリジナルマフラー展

七月から九月までの間、四回にわたり染織り講習会を行ってきました。講習会は、デザインを考案して、真綿を草木染で染めて、糸に紡いで織り、マフラーを完成させる予定でしたが、四回の講習会では時間が足りず、完成することができませんでした。その為、講習会終了後に、各自、夕鶴の里に通っていただき、ほぼ全員が、マフラーを完成することができました。



草木染め(赤じそ・青芋)のマフラー展は、十月十九日(水)〜十一月四日(金)。時間は、午前九時〜午後四時三十分。夕鶴の里語り部の館、一階に展示してありますのでご覧くださいませ。

南陽こども芸術祭

十一月二十日(日)午後一時より、南陽市文化会館で、「南陽こども芸術祭」が開かれます。

南陽こども芸術祭は、南陽市芸術文化協会主催で開催され、今年で五回目を迎えます。夕鶴の里で、民話の語りをするんだ小学生五名が「夕鶴の子の会」として出演し語りを披露します。

「昔のあそび」のお知らせ

～まゆ玉であそぼう～

9月24日(土) 10時～
まゆ玉を切ったり、ポンドでくっつけて、いろいろなものを作ります。
ぜひ、きてくださいね～

